

みえメディカルバレーフォーラム2008 自立・持続可能な地域づくりを目指して

8月8日(金)の午後、今年もみえメディカルバレーフォーラム2008が開催され、産学官民の約150名が、会場のホテルグリーンパーク津に参集しました。今、みえメディカルバレー構想のスタートから6年が過ぎ、次の3年間に向けた飛躍を検討する時期にあり、今回のフォーラムは、三重大の豊田学長によるみえメディカルバレーの取組と成果の報告

に始まり、知事のビデオメッセージ、日本学術振興会・学術システム研究センターの黒木副所長による健康についての講演があり、三重県薬事工業会の田山会長が今後のみえメディカルバレーの目指す姿を語って締めくくられました。報告と講演、交流会を通じ、参加者が自らの健康とともに、構想の成果と方向性を再確認し、連携を深める場となりました。



● みえメディカルバレーフォーラム

みえメディカルバレーの取組と成果

三重大 豊田 長康 学長

これまで6年間のみえメディカルバレープロジェクトの取組を振り返り、多くの成果が確認されました。最後に、「今後ともみえメディカルバレープロジェクトを持続的に発展させ、さらなる進化をめざす」という意思が表明されました。

知事からのメッセージ「^{うま}美し国・^{とこわか}三重の常若」

三重県 野呂 昭彦 知事(ビデオ) / 代理 安田 敏春 副知事

公務のためビデオ出演となった野呂知事からは「^{うま}美し国・^{とこわか}三重の常若」というメッセージが届けられました。メディカルバレーに対しては、地域資源を活かして海外との連携、研究開発や人材育成、雇用につなげている三重のリーディング産業であり、県政の方向性を実践している先進事例だというエールが送られました。

講演 「人は何故病気になるのか」

日本学術振興会・学術システム研究センター 黒木 登志夫 副所長



● 講演される黒木 登志夫 副所長

前岐阜大学学長の黒木登志夫氏が、ご著書の『健康・老化・寿命人』の文化誌(中公新書)の内容を踏まえ、健康に関する誰にも興味深いお話をユーモアを交えて語られました。講演内容は、寿命、老化、肥満、糖尿病、循環器疾患、がん、生活習慣の7つのテーマに分かれます。ここでは簡単に講演内容をご紹介します。

はじめに、健康は病気を内包し、若さは老いを内包し、寿命は死を内包しているという生命観が示されました。

寿命 日本人は昔から長寿だったわけではなく、戦後急速に平均寿命が伸び、1986年以来、世界一の長寿国になりました。江戸時代には周産期女性の死亡率が高く、子育て期間も長く、現代とは全く異なるライフサイクルでした。

老化 老化は20歳頃までに獲得した体力・機能を6倍の時間をかけて失っていく過程です。老化で問題になるのが要介護で、その原因では脳血管障害のほか、転倒による骨折も無視できません。とくに朝の転倒が多いので障害物を片付けるなど注意が必要です。

肥満 日本人には飢餓遺伝子型(余分な栄養を貯め込む遺伝子型)が多いので、内臓脂肪がたまりやすいといえます。内臓脂肪の蓄積は様々な病気の原因になります。

糖尿病 糖尿病には自己免疫による1型糖尿病と、生活習慣病である2型糖尿病があります。20歳以上の日本人の10%が糖尿病で10%が予備軍です。糖尿病は万病の元で、重篤な合併症の原因にもなります。

循環器疾患 脈拍は小さい動物ほど早いのですが、血圧は動物間でほぼ一定です。高血圧は循環器疾患のリスク因子の一つで、メタボリック症候群の診断基準にも入っています。

がん ヒトのがんの90%は体表面にできます。がんの5年生存率は改善されていますので、早期発見が大事です。黒木先生はご自身の大腸ポリープ摘出の体験を研究対象にして、アスピリンの服用が大腸ポリープを予防することを発見しました。

生活習慣 喫煙は全死亡の22%に寄与しています。岐阜大学ではキャンパスを禁煙化し、喫煙者にイエローカードを出すなど、喫煙率減少に取り組んでいます。

最後に、病気にならないため、なっても早く治すために、たばこを吸わない、食べ過ぎない、野菜を食べる、運動をする、毎年健診を受けるという心がけを紹介して講演は締めくくられました。

ご自身の体験も含む豊富なエピソードに裏付けられた、興味深い講演でした。

今後みえメディカルバレーが目指す姿

三重県薬事工業会 田山 雅敏 会長

最後に、豊田学長のお話を引き継ぐ形で、三重県薬事工業会の田山会長が、今後みえメディカルバレーが目指す姿を語られました。今後メディカルバレーが目指す姿として、「ネットワークの充実・拡大」、「人材の確保・育成」、「臨床研究体制の推進」、「技術支援・製品開発支援」そして「推進体制の充実」を掲げています。今後3年間産業界は自立を目指し、重点的に有望事業に投資していきたいという力強いお言葉をいただき、フォーラムが締めくくられました。

全国的な展示会で、メディカルバレーの取組を紹介

第7回

産学官連携推進会議

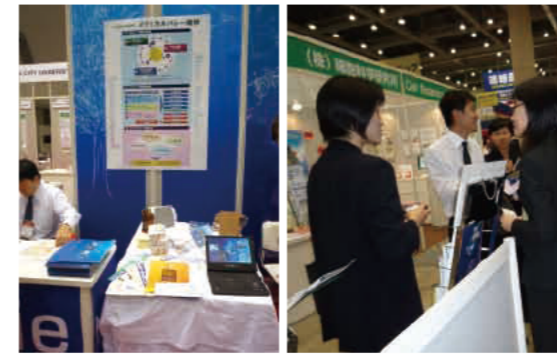
6月14日(土)、15日(日)に国立京都国際会館で「第7回 産学官連携推進会議」が開催され三重大・津市と共同出展しました。

このイベントは、国(内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省等)が第3期科学技術基本計画で掲げた「科学の発展と絶えざるイノベーションの創出」の実現に必要な産学官連携力の強化を図ろうとするものです。

大学、企業、研究機関、自治体等の各展示ブースにはそれぞれの活動・研究成果が紹介され、みえメディカルバレープロジェクト、みえ治験医療ネットワーク等を紹介した当ブースにもたくさんの方が訪れました。産学官問わず、様々な出展者と意見交換や情報交流ができ、当プロジェクトの情報を発信する絶好の機会となりました。



● 参加者との交流、三重大・津市・メディカルバレーブース



● メディカルバレーブース、国外参加者との交流、国内参加者との交流

7月2日(水)、3日(木)、4日(金)の3日間にわたり、東京ビッグサイトで「第7回 国際バイオ EXPO」が開催され、三重大と共同出展しました。このイベントは、『第7回 国際バイオフォーラム』の同時開催もあり、国内外問わず技術相談や商談が活発に行われるアジア最大のバイオイベントとなっています。今回の出展企業は、過去最多の622社(前回600社)でした。

三重県からは、大学・国公立研究所による研究発表フォーラムで三重大から5名の先生方が研究成果を発表し、ブース(大学・研究所単位のバビリオン)での同研究成果に関する展示とともに関心を集めていました。みえメディカルバレープロジェクトも同バビリオン内にブースを構え、第1期構想における成果と第2期構想の方向性に関し、国内外問わず多数の来場者に周知を図ることができました。また、同プロジェクト関連企業2社も共催のインターフェックスマジックに出展し、来場者と活発な交流を行っていました。

第7回

国際バイオ EXPO